

高知家の健康だより



令和5年6月30日発行

全国的にヘルパンギーナが増加しています！

夏風邪には、ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱(プール熱)・手足口病等があります。例年、6月頃から5歳以下の乳幼児を中心に増えはじめ、7～8月頃にピークとなります。

ヘルパンギーナ

- ・38～40度の発熱で発症し、同時にのどが痛む病気で、発熱が1～3日続き、食欲不振、全身のだるさ、頭痛などを起こします。
- ・1～4歳くらいまでの乳幼児がかかりやすいです。
- ・一般的に経過は良好で、2～3日以内に回復します。

咽頭結膜熱(プール熱)

- ・発熱(38～39度)、のどの痛み、結膜炎といった症状を来す、小児に多い病気です。
- ・プールを介して流行することもあるので、プール熱と呼ばれることもあります。
- ・プールからあがったときは、シャワーを浴び、目をしっかり洗い、うがいをしましょう。

手足口病

- ・口の粘膜および手足に水ぼうそうのような発しんが現れる乳幼児の病気です。
- ・せきをしたときのしぶきや便などから感染します。
- ・感染してから病気の症状が出るまでの期間は3～5日です。
- ・発症者の約3分の1に軽度の発熱がみられますが、高熱が続くことはありません。

【夏風邪の予防方法】

手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。タオル・コップ等の共用、感染者との密接な接触はさけるようにしましょう。回復後にも2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあるので、特に、外出後、食事の前、トイレの後の手洗いを徹底しましょう。

県内の感染症についての詳しい情報は下記URLよりご確認ください

高知県衛生環境研究所「感染症情報2023(週報・月報)」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2023011800047.html>

(参考文献：高知県感染症発生動向調査(週報)25週

わかりやすい感染症Q & A(ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、手足口病)(厚生労働省))

ジェネリック医薬品使用割合(出典：「最近の調剤医療費の動向」R5.1月時点)数量ベース(新指標) 高知県 80.8%(全国45位) 全国 83.7%

